

第1記事

埼玉県吉川市

不適切発言で謝罪

ALS患者に「時間稼ぎ？」

調査のため高田さん宅を訪れたとき、目で文字盤を追って答えようとする高田さんの前で「時間稼ぎですか」と発言した。

同16日に埼玉県庁で抗議の記者会見を開いた高田さんは「ただただ悔しかった」と話した。同市は不適切発言であることを認めた。

ALSは手足の筋力が徐々に低下する進行性の難病。高田さんは50音に瞬きで反応し、それをヘルパーが読み取る方法で意思疎通している。

埼玉県吉川市障がい福祉課の職員が、市内の筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者の高田泰洋さん（43）に不適切な発言をしたとして、同市は19日、中原恵人市長名の文書で「たいへん不愉快な思いをさせてしまい、心よりおわび申し上げます」と謝罪した。

問題の発言があったのは今年4月12日。同市職員が障害福祉サービス支給決定に関する

ALS患者の意思疎通をめぐっては、2016年5月の衆議院厚生労働委員会で、質疑に時間がかかることを理由にALS患者の参考人招致が見送られる出来事があり、問題となった。（福田敏克）

第2記事

介護の特定技能 比で初試験実施

改正出入国管理法で1日に創設された在留資格「特定技能」の介護の最初の試験が13、14日にフィリピンで行

われ、113人が受験した。根本匠・厚生労働大臣は16日、申し込み初日で定員上限に達したことを明かし、当初6月に予定していた第2回試験を5月25、27日に行うとした。

結果は1カ月後をめぐりに通知される。受け入れ機関は合格者と雇用契約を結び、支援計画を策定する。入国は早くて秋ごろの予定。

厚労省は第3、4回試験を6月中旬、下旬に行うことも公表したが、フィリピン以外の国での試験開催について担当者は「実施に向けて調整中」としている。（榎戸新）